

# 特集 タイヤ・ホイール

## タイヤ



25年の販売会社ベースの四輪車市販用タイヤ販売本数は、前年比1.5%増の6399万7千本と微増だった。内訳は夏用が横ばいの4526万3千本、冬用が同2.5%増の1773万4千本だった。車種別では乗用車が、冬用が増加したことから同1.5%増の4598万6千本だった。小型トラック用は横ばいの1275万5千本、トラック・バス用が同3.5%増の255万6千本となった。

26年に入ってからは四輪車の市販用タイヤ市場は1月に低迷したものの、その後は回復基調だ。1月はトラック・バス用が前年同期比13.5%減と大幅マイナスになったのに加え、乗用車も同7.3%減と低迷したため、四輪車用全体では同6.5%減となった。2月は乗用車用が同5.4%増と回復したため、四輪車全体が同0.6%減と微減で、3月が同3.9%増、4月が同1.1%増と前年を上回る水準で推移している。

国内タイヤメーカー4社の26年1~3月期連結での新車用などを含む国内事業の業績は、メーカー

1)によって販売本数は明暗が分かれたものの、価格改定の効果に加え、大径タイヤなどの付加価値の高いタイヤの販売比率が上がったことから収益面では全体的に順調に推移している。

プリチエーションの日本事業の業績は売上収益が前年同期比1%増の3038億円、調整後営業利益が同26%増の537億円となり、利益率が前年同期より3.5%アップして17.7%となった。為替差益に加え、国内市販用タイヤの販売本数が増えたことや、価格改定、モデルミックスの改善が寄与した。

住友ゴム工業の国内市販用タイヤ販売本数は同4.5%減と低迷した。内訳は乗用車用が同6%減、トラック・バス用が同15%減、二輪・産業用などが同11%減だった。ただ、オールシーズンタイヤ「シンクローエザイ」や高イン子帯の高付加価値タイヤの販売が好調だった。日本向けタイヤ事業の売上収益は同5.5%増の673億円、事業利益が同20%増の36億円だった。

横浜ゴムのタイヤ事業は、日本の販売本数が同4%増と順調に伸びた。このうち、新車向けが同2%増、市販用が同5%増と高い伸び率となった。

横濱ゴムのタイヤ事業は、日本の販売本数が同4%増と順調に伸びた。このうち、新車向けが同2%増、市販用が同5%増と高い伸び率となった。

国内外でタイヤ事業が好調だったことから26年1~3月期連結の売上収益、事業利益は過去最高となった。事業利益率は14.6%だった。

トヨタタイヤの日本事業の売上高は市販用タイヤの販売本数が大幅に減少したため、同11.7%減の238億円と大幅減収となったものの、営業利益はモデルミックスの改善効果などで同10.7%増の154億円となり、減収増益だった。

今後の国内タイヤ市場の焦点となるのが、原材料価格の上昇に伴う価格改定の動向だ。中東情勢が悪化している影響で、タイヤの原料である合成ゴムの価格が上昇し、この影響で天然ゴムの価格も上がっている。燃料価格の上昇で、タイヤを製造するためのオペレーションコストや物流費も高騰している。

横濱ゴムは6月から国内市販用タイヤの価格を平均5%引き上げることを発表している。日本ミシュランも夏用が6月から、冬用が9月から市販用タイヤを製品ごとに3.5%引き上げることを決めている。他のタイヤ各社もコスト低減などにより原材料高の吸収に注力しているもの、自動努力だけでは限界があることから、価格への転嫁を検討している。ただ、値上げによって市販用タイヤ市場が冷え込むことも懸念されており、各社はライバルの動向や市場状況を見ながら、慎重に判断する姿勢だ。

## ホイール

市販用ホイールのメーカー各社は、軽自動車やSUV、スポーツカーに最適化した高付加価値品の開発に力を入れている。原材料価格の高騰などで事業環境は厳しい。そうした中で、ユーザーの需要を喚起する新商品を継続的に投入し、市場の活性化を図る。

自動車用品小売業協会（APARA）小林喜夫（会長）がまとめた加盟カー用品店4社の2025年度の売上高は、前年度比1.0%減の148億9624万円となった。物価高騰に伴って消費者の節約志向が強くなったほか、暖冬の影響でタイヤとのセット販売も伸び悩んだ。

さらに、足元では中東情勢の悪化に伴う影響で横濱ゴムやミシュランなどタイヤメーカーが相次いで値上げに踏み切っている。タイヤ・ホイールの販売店では、値上げ前の駆け込み需要の取り込みに余念がないが、価格改定後は、セット販売されるホイールの売り上げも低迷する可能性がある。

もともと、26年度の新車市場は前年度よりも増

### 新商品の継続投入で需要拡大に期待



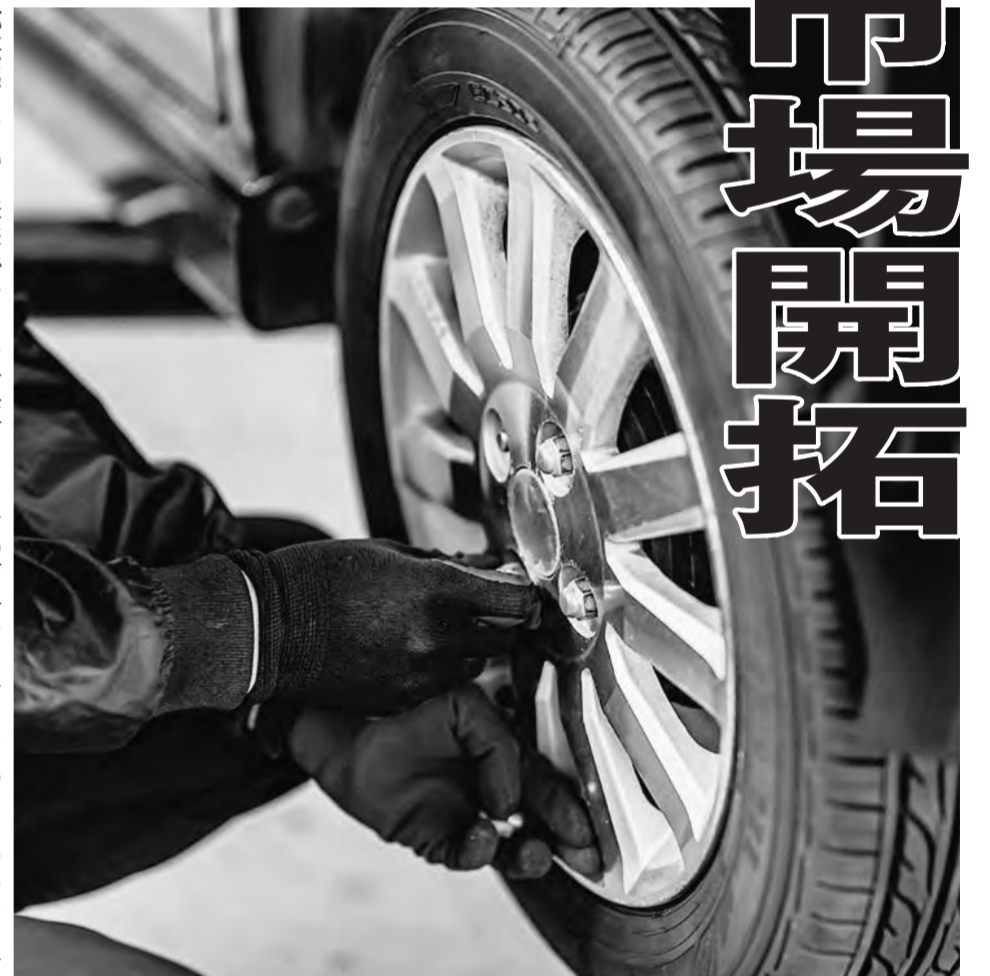
加する見通し。新型車ではトヨタ自動車「ランドクルーザーJ」やマツダが新型「CX-5」といった人気のSUVを発売したほか、日産自動車も夏には「エルグランド」を全面改良する。また、トヨタは受注を制限

していた「アノヴァーク」の供給量を増やし、当面は制限なく受注を受け付ける方針だ。こうしたモデルのユーザーニーズを捉えた高付加価値のホイール需要の拡大にも期待できそうだ。

# 高付加価値化で進む市場開拓

## 中東情勢の悪化響き原材料費高騰 値上げで市場冷え込む懸念も

日本自動車タイヤ協会（JATMA）がまとめた2026年1~4月の四輪車の市販用タイヤ販売本数は、前年同期比0.3%増の1998万4千本と、ほぼ横ばいだった。トラック・バス用は低迷しているものの、乗用車用が順調に推移している。中東情勢が悪化している影響で、合成ゴムや天然ゴムなどのタイヤの原材料価格が急上昇しており、横濱ゴムと日本ミシュランタイヤ（須藤元社長、群馬県太田市）が国内市販用タイヤの値上げを決めたほか、他のタイヤ各社も価格改定を検討している。市販用タイヤ市場への影響を懸念する声が強まっている。



が悪化している影響で、タイヤの原料である合成ゴムの価格が上昇し、この影響で天然ゴムの価格も上がっている。燃料価格の上昇で、タイヤを製造するためのオペレーションコストや物流費も高騰している。

横濱ゴムは6月から国内市販用タイヤの価格を平均5%引き上げることを発表している。日本ミシュランも夏用が6月から、冬用が9月から市販用タイヤを製品ごとに3.5%引き上げることを決めている。他のタイヤ各社もコスト低減などにより原材料高の吸収に注力しているもの、自動努力だけでは限界があることから、価格への転嫁を検討している。ただ、値上げによって市販用タイヤ市場が冷え込むことも懸念されており、各社はライバルの動向や市場状況を見ながら、慎重に判断する姿勢だ。

# 青を刻め

まだ、走ったことのない道へ。

TOYO TIRES





# タイヤは、 雨で選ぼ。



BluEarth AE-01Fから  
ADVAN **dB** V553に替えると  
雨の日に  
約**20%\***短く  
止まれる!

\*詳しくはカタログ・HPをご覧ください。



横浜ゴム株式会社 ☎0120-667-520 | www.yokohama.com/product/tire/

月に一度は空気圧の点検を。

詳しくはこちら



### 住友ゴム工業

## SYNCHRO WEATHER

あらゆる路面で高性能実現

住友ゴム工業(DUNLOP)の次世代オールシーズンタイヤ「SYNCHRO WEATHER(シンクロウェザー)」。



性質にゴムが変化し、水に濡れると結合が離れてゴム表面が柔らかくなり、乾燥すると元に戻る。低温下では、グリップ成分の一部をポリマーから切り離しても機能する材料に置き換えることで、氷上でもゴムの柔らかさを維持する。

これにより、優れたウェット性能と氷上性能を発揮。高速道路の冬用タイヤ規制でも走行可能な「スノーフレックマーク」に加え、国際的な氷上性能基準「アイスグリップシンボル」も付与する。最新のノイズシミュレーション技術を活用した「新トレッドパターン」で、静粛性と排水・排雪性、耐摩耗性能も高めた。

### TOYO TIRE

## PROXES

レースで鍛えた技術を投入

TOYO TIREは「PROXES(プロクセス)」をグローバルフラッグシップブランドと位置付ける。ハンドリング性能とブレーキ性能を高次元で磨き上げるべく、モータースポーツで技術を鍛え、商品開発に生かす挑戦を続けている。



ラ・ハイ・パフォーマンスタイヤ。優れた基本性能と洗練されたパターンデザインは国内外で高く評価されている。こうしたPROXESブランドの魅力象徴するものが、23年2月に発売したプレミアムスポーツタイヤ「PROXES Sport(プロクセススポーツ)」だ。独ニルブルクリンクでの耐久レースをはじめとするモータースポーツへの参戦を通じて、過酷な条件の中から得た知見を生かし、ドライバーの操作に忠実な走り、確かな制動を両立した。

### ブリヂストン

## ALENZA LX200

3つの基本性能を高次元に

ブリヂストンの「ALENZA(アレanza) LX200」は、同社の商品設計基盤技術「ENLITEN(エンライトン)」を搭載したオンロードSUV向けプレミアムタイヤだ。接地形状の最適化による均一なタイヤ変形、振動入力低減により音の吸収を実現する「LX Lite Comfort」設計、ウェット性能の大幅向上に寄与する「LX Aqua Tech」ゴムを採用することで、乗り心地、運動性能、静粛性を高次元に向上させた。



数を分散する突き通しサイリブ、パターン剛性を確保しつつの溝形状においても周波数ノイズを抑制するタイヤパターンにより、荒れたアスファルト路面における従来品との比較実験では騒音エネルギーが16%低減。加えて、雨天時のウェットブレーキ制動距離比較においては同15%低減、転がり抵抗についても同18%の低減にそれぞれ結びつけている。

タイヤメーカー各社の注目商品

# さあ、つくろう。

自問自答を繰り返す。  
何をつくりたいのか。  
何処を目指しているのか。  
ジブンらしい、ジブンだけのもの。  
答えはいつもジブンの中にある。  
さあ、つくろう。ワークで。

C. Tanaka

WORK COMPANY LIMITED Head Office 4-1-13, Nagatanishi, Higashiosaka, 577-0016 JAPAN. OFFICIAL SITE https://www.work-wheels.co.jp/



### Performance Driven

BBSの原点であるモータースポーツ。  
 極限の舞台で求められる最高のパフォーマンスを追求し、  
 磨き上げられた圧倒的な運動性能。  
 妥協なきクラフトマンシップが生み出す、  
 機能の先の造形美。  
 技術の粋を注ぎ込んだホイールを、  
 あらゆるドライブシーンへ。  
 ドライビングを愛するすべての人に、  
 最高のホイール・パフォーマンスを。  
 その瞬間、心まで動き出す。



Performance Driven



BBSジャパン株式会社  
www.bbs-japan.co.jp

## VOLK RACING TE37 ultra LARGE P.C.D. 30th ANNIVERSARY

初代へのオマージュ 節目の一作

レイズ(ス波翔太郎社長)のスポーツホイールブランド「VOLK RACING」(ボルクレーシング)を代表する「TE37」の誕生30周年を記念した特別仕様モデル「TE37 ultra LARGE P.C.D. 30th ANNIVERSARY」(ウルトララージP.C.D. 30th ANNIVERSARY)。初代「TE37」のオマージュとして仕立てた節目の一作だ。TE37は、軽量かつ高剛性という理想を追い続け、幅広いシーンで支持を集めてきた。記念モデルでは、初の「TE37」バリエーションとして「初代へのオマージュ 節目の一作」

レイズ(ス波翔太郎社長)のスポーツホイールブランド「VOLK RACING」(ボルクレーシング)を代表する「TE37」の誕生30周年を記念した特別仕様モデル「TE37 ultra LARGE P.C.D. 30th ANNIVERSARY」(ウルトララージP.C.D. 30th ANNIVERSARY)。初代「TE37」のオマージュとして仕立てた節目の一作だ。TE37は、軽量かつ高剛性という理想を追い続け、幅広いシーンで支持を集めてきた。記念モデルでは、初の「TE37」バリエーションとして「初代へのオマージュ 節目の一作」

誕生した四輪駆動車(4WD)向け「LARGE P.C.D.」の系譜を引く「ultra LARGE P.C.D.」を基に、初代の思想とデザインを受け継ぎつつ再構築した。仕様は、初代を想起させる専用ステッカーを採用した「STICKER Ver.」(ステッカーバージョン)と、旧ロゴをスポークに切削で刻んだ「MACHINE G Ver.」(マシンングバージョン)の2タイプ。さりげなく特別感を備えたモデルだ。

フランジ部に「30th ANNIVERSARY」の刻印を施し、初代と同じブルーカラーのバルブを採用。カーボン調の記念ステッカーも付属するなど、節目にふさわしい特別感を備えたモデルだ。

### レイズ



ホイールメーカー各社の注目商品

### 横浜ゴム

## ADVAN スポーツ v107

要求性能をハイバランスで実現

横浜ゴムの「ADVAN (アドバン) スポーツv107」は運動性能、快適性、安全性を高次元でバランスしながら、ドライ・ウェット性能と操縦安定性を実現したウルトラハイパフォーマンスタイヤだ。素材には独自開発によるパワークラウンベルト、マトリッククス・ボディ・プラウなどを搭載し革新性を打ち出している。パワークラウンベルトは耐熱・耐摩耗性に優れた高剛性アラミド繊維を一般市販材として初めて採用。マトリッククス・ボディ・プライはサイドからショルダーまで交差する二重構造により周方向の剛性向上を実現。快適性を損なうことなく高いステアリング性能に寄与している。

ゴム素材には粒子径の小さいシリカに加え、シリカ分散材とともに、耐熱、耐摩耗性に優れたカーボンブラック量を従来比で増やした。トレッド面では非対称パターンを採用。アウトサイドにはドライ機能、インサイドにはウェット機能の強化に寄与するパターンを施した。合わせて接地面圧が均一になるよう断面形状を最適化した。タイヤサイドに施されたブランド刻印を従来比で鮮明にしたことで、ユーザーの所有力を高めることにもつながっている。



この広告はネット配信しておりません

安全・安心なアルミホイールで  
楽しいカーライフを



**NAPAC**  
Nippon Auto Parts  
Aftermarket Committee

アルミホイールの  
安全について詳しくわかる  
動画公開中!



「JAWAスリースター」は重要な3つの安全指標を満たす証



国が定めた  
安全基準に適合  
JUL JUL-T

第三者機関の  
実試験と登録  
VIA

JAWA基準  
アルミホイールの証  
JAWA

NAPAC

(一社)日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会  
〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-14 最勝ビル11F-5  
<https://www.napac.jp>

TEL: 03-5719-9177  
FAX: 03-5437-6882

WEBページはコチラから  
JAWAスリースター



静けさと、なめらかさと。  
心地よさに包み込まれる。

**ALENZA**

SUV向けプレミアムタイヤ



**BRIDGESTONE**  
Solutions for your journey

株式会社ブリヂストン  
[お客様相談室] フリーダイヤル: 0120-39-2936  
受付時間: 月～土 (祝日および指定祭日は除く) 9:00～17:00  
[www.bridgestone.co.jp](http://www.bridgestone.co.jp)

# MID RACING R10EVO

## マルカサービス



マルカサービス(福野直樹社長)のスポーツブランド「MID RACING(エム・アイ・ディーレーシング)」から登場した新作ホイール「R10EVO(アールテンエボ)」。日本品質を背景に、軽量性能を徹底的に磨き上げた10スポークモデルだ。

「エボ」が示すのは、日本製への進化。ホイールメーカーのエンゲイが製造を担うというコラボレーションにより実現した。エンゲイの多様な車種・市場への対応力と技術力に、レイズの開発姿勢や設計、視覚的なシャープさも実

計思想、ノウハウを融合することで、高付加価値と信頼性を両立。豊富な実績に裏打ちされた設計が、性能面での安心感を支える。

デザイン面は、10本スポークの均整を際立たせる造形とし、ハブ周辺につながるライオンフェイス全体を構成。緻密な肉厚設計で軽快さと剛性を両立し、引き締まった佇まいも演出している。

スポーク側面には徹底した削り込みを施し、断面形状を最適化した。軽量化に加え、新たな方向性を提示するモデルだ。

サイズは15インチ、カラーは「ホワイト」「ブラックメタリック」を用意する。

「走りのために成立したスポーツホイール」。MIDの新たな方向性を提示するモデルだ。



日本品質を背景に軽量性能磨く

# LM マットゴールドディスク

## BBSジャパン



力強さ際立つ 8年ぶりの新色

BBSジャパン(新田孝之社長)はロングセラーモデル「LM」に新カラー「マットゴールドディスク」を設定した。

LMは「ル・マン24時間耐久レース」で活躍するチームマシンに常に選ばれてきたBBSレーシングホイールをベースとして開発されたアルミ鍛造2ピースホイール。LMは文字通り「Le Mans」(ル・マン)の文字を冠した伝統あるシリーズで、新カラーのラインアップはマットゴールドディスク・シルバーダイヤカットリム、同

カラーの投入は実に8年ぶりとなる。

マットゴールドは従来ラインアップされていたゴールドをより深みのある色合いへとアレンジした。LMの持つ力強さを際立たせることともに、装着車両を威風堂々とした佇まいに仕立てる。

新カラーのラインアップはマットゴールドディスク・シルバーダイヤカットリム、同

・ブラックフライトダイヤカットリムの2つ。  
サイズは17インチ×7.0×9.0J、18インチ×7.5×11.0J、19インチ×7.5×12.0J、20インチ×8.0×12.0J、21インチ×8.0×12.0J。



# RAYS

株式会社レイズはこれまで、自動車を取りまく時代の変化に先進技術・優れたデザイン・高い設計力で応えてきました。近年では、安全性や快適性の向上、そして電動化の進展により、車両の重量はますます増加傾向にあります。その新たなニーズに応えるべく、レイズは高級SUVや、進化を続ける電気自動車にも対応したホイールを開発。その象徴が、23インチ・高耐荷重設計の鍛造モデル「TE37GC」。圧倒的な強度と軽さ、新技術 A.S.T.(ADVANCED SURFACE TECHNOLOGY)による鏡面加工の輝き、設計美を融合させた1本です。次世代モビリティの可能性を足元から拓く——レイズの挑戦はこれからも続きます。



TE37GC

**RAYS** The concept is racing.  
株式会社レイズ <https://www.rayswheels.co.jp> USER: 02AL06-67874019(9:00~18:00)



MADE IN JAPAN ORIGINAL FORGING TECHNOLOGY **RAYS** ENGINEERING

インタビュー



一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会(NAPAC)

中嶋 敬一郎会長

プレミアム帯は堅調  
差別化は容易でないが…

市販ホイール市場では、プレミアム領域が堅調に推移している。イベント出席などを通じたカスタム文化の裾野拡大も進む中、市場構造には変化も見られる。日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会(NAPAC)の中嶋会長に現状を聞いた。



「必需品としてのホイールは弱い一方で、プレミアム帯は堅調だ。ブランド志向の商品は落ちておらず、むしろ伸びている分野もある。趣味性の高い需要は維持されており、価格が上がっても欲しいものは購入する層が一定数存在する。市場は明確に二極化している。中古市場での再販を前

「EVは車重が増加するため強度確保が重要になるが、現行基準で一定の対応は可能だ。今後は基準見直しへの配慮も課題になる」  
「品質確保の取り組みは」  
「ホイールには国の技術基準であるJWLがあり、メーカーによる自己認証で適合が示される。これに対し第

ブランドと品質が重要に

伸びるのは付加価値領域

「従来はスポークを基調としたデザインが主流だったが、近年はメッシュやデザインといったデザインも見られる。ただ、大きな変化は少なく、デザインは出尽くしており、差別化は容易ではない。機能面では軽量化が引き続き重要だが、コストとの両立が課題となる。強度や剛性とのバランスも求められ、性能面は成熟段階にある」  
「電動化への対応は」  
「EVは車重が増加するため強度確保が重要になるが、現行基準で一定の対応は可能だ。今後は基準見直しへの配慮も課題になる」  
「品質確保の取り組みは」  
「ホイールには国の技術基準であるJWLがあり、メーカーによる自己認証で適合が示される。これに対し第

三者試験としてVIA制度がある。ただし外観上の判別が難しいケースもあり、業界としての対応が求められる。JAWAでは、これらの基準を満たした会員の製品に品質認定証を貼付し、安心・安全の可視化を進めている。PL保険も付帯しており、会員企業の拡大も課題だ」  
「原材料や物流などコスト環境は」  
「原材料費は高止まりが続いている。アルミ価格は国際市況に左右され、輸入依存の構造も影響する。中国動向の影響は大きく、物流費や資材費も上昇している。梱包資材も含めてコスト増要因は多い」  
「足元の市場動向と価格上昇の影響は」  
「ポリウムゾーンが減少している。ピーク時の品質認定発行枚数は1300万枚を超えていたが、現在は800万枚程度まで落ち込んでいる。タイヤ単体での購入が増え、セット販売は減少している」  
「今後の見通しは」  
「量的な拡大は難しいが、付加価値領域は伸びる。ブランドと品質がより重要になる。市場の選別は進むだろう。イベント出席などを通じてカスタム文化の裾野を広げていくことも重要だ。業界として安全性の確保とユーザーへの啓発を続けていく」



WORK EMOTION CR Shigoku

ワーク



強く、そして軽く 理想を体現

ワーク(田中知加社長)のスポーツブランド「WORK EMOTION(ワークエモーション)」の新作「ワークエモーション」CR Shigoku(至極)。「ロングセラーモデル」CR Kiwami(極)のデザインと構造、性能のすべてを刷新し、進化を遂げた。  
最大のポイントは、強度と軽さの相反する要素の両立にある。CR Kiwami比で最大約700gの軽量化を実現しつつ、耐荷重は700kgから720kgへと向上。サイドマシニングやアンダーカット加工、最新の構造解析技術「WAE」による最適設計により、無駄を削ぎ落としながら剛性も高める設計を実現した。  
デザイン面は、CR Kiwamiのスポークデザインを継承しつつ、より立体的でシャープな造形へと進化した。加えて、新カラー「アイドチタン」を設定。カップ系プロングをベースに艶のある仕上げとし、光の当たり方で表情を変える奥行きある輝きを放つ。そのほか、カラーは「アイスホワイト」「グロカンメタ」を用意。サイズは17、19を設定した。トヨタ「GR86」やホンダ「シビックタイプR」、日産「フェアレディZ」などスポーツモデルに向け、強く、そして軽く、という理想を体現。スポーツホイールに求められる要素を高次元で融合させた一本だ。



ホイールは、MID.



マルカサービス株式会社  
A Member of RAYS Group

https://www.mid-wheels.com

TVCM 放映中!  
QRコードと特設サイト